東栄新薬

# 中国で特許権が発効

## 日米中の3カ国で特許

サプリメントを製造・販売する東栄新薬（本社 東京都、元井章智社長）は10月28日、東京薬科大学薬学部免疫学教室との共同研究によって生まれた技術「β－1，6－分岐β－1，3－グルカンまたはβ－1，3－グルカンの検出・定量方法および検出・定量キット」について、中国で特許権が発効したと発表した。これにより、日米中の3カ国で特許が発効したことになる。

10月9日の授権公告をもって、中国での特許権が発効したという。

同技術については、日本では2025年2月に、米国では26年9月に、それぞれ特許が登録されていた。

東栄新薬と東京薬科大学薬学部免疫学教室はこれまで、ブラジル産「露地栽培アガリクスKA21株（以下KA21）」に含まれるβ－グルカンの測定と作用メカニズムに関する共同研究を進めてきた。同技術は、東栄新薬と東京薬科大学が進めてきた共同研究の中から発案されたという。

アガリクスなどのキノコに含まれるβ－グルカンは、結合様式や分岐構造によって性質が異なるのだとしている。今回特許登録された技術は、β－1，6－分岐β－1，3－グルカンまたはβ－1，3－グルカンを検出定量する方法とキットに関する技術だという。

「KA21」使用のサプリメントのβ－グルカン含有量測定、β－グルカンの作用メカニズムの研究、真菌症の診断などへの応用が期待されるとしている。